

# 山梨県道志村方言のアクセント

田 萌

## 1. はじめに

山梨県方言は、大菩薩・御坂山系を境にして、大きくは東部方言・西部方言に分かれるが、山梨県下のアクセントは東部方言も西部方言（奈良田を除く）も全域が東京アクセントに属すると言われる。ただし、個々の語のアクセントについてみると、東京と山梨県との間に多少の違いがあること、また、その違いは和語よりも漢語に顕著であることが先行研究から明らかになっている。

今回、これまでの研究資料をふまえて、山梨県南都留郡道志村の老年層におけるアクセントの調査を企画・実施した。本稿では、東京方言との差異に注目しながら、その結果を報告し、考察を加える。

## 2. 先行研究

金田一（1943）によれば、山梨県下のアクセントは、東京を中心に広がっている東京アクセントと基本的には同じであることがすでに明らかである。しかし、二拍名詞の和語や、三、四拍名詞の和語・漢語などの中には東京アクセントと違うものが存在する。例えば、「命」「涙」などの三拍名詞は東京アクセントでは頭高型であるのに対して、山梨県では中高型である。さらに、東京で頭高型の語はほかの型に変化しているものが多い。

また、清水（1964）によると、三拍漢語のアクセントは東京と違うものが多い。例えば、

東京平板型—甲府頭高型

印紙・会費・気分等

東京頭高型—甲府平板型

空気・二冊・分子等

さらに、秋永（1996）によると、複合動詞において、前部要素のアクセントが生かされる現象が現れる。例えば、

	東京	山梨県
取り出す	○○○○	○○○○

降りこんだ	○○○○○	○○○○○
思い出す	○○○○○	○○○○○

以上のような先行研究をふまえ、今回の調査では、一～四拍名詞や複合動詞におけるアクセントを確かめることを目的とした。

### 3. 調査概要

今回の調査は、2000年度東京都立大学における「方言学演習」という授業（荻野綱男教授・篠崎晃一助教授担当）で行った道志村方言調査の一部である。ただし、アクセント項目の調査者は筆者のみである。調査期間は、2000年9月2～5日。調査地点は本稿末尾の図1・2参照。調査場所は道志村内のインフォーマント宅や調査時に泊った民宿である。

#### 3. 1. インフォーマント

本調査は、道志村の高年層の60代から90代にわたり、<sup>かみ</sup>上地域4人、<sup>しも</sup>下地域6人、合わせて10人を対象として行った。内訳は東神地（上）2人、中神地（上）1人、谷相（上）1人、竹の本（下）2人、小善地（下）2人、大野（下）1人、久保（下）1人であり、いずれも調査地で言語形成期をすごした方である。本報告の表に出てくるA1～A4は上地域、B5～B10は下地域のインフォーマントのことを指す。調査地点とインフォーマント数は、必ずしもバランスが取れたものではないが、後述の調査結果から見ても分かるように、上と下の地域差はほとんど出なかった。

インフォーマント10人のうち、男性が9人、女性が1人（下・小善地）である。調査結果を見ると、女性のインフォーマントは、男性と特に違いがなかったので、以下では男女を区別せずにデータを示すことにする。

#### 3. 2. 調査方法

調査方法は「リスト読み上げ発話」法によって行った。調査語を一覧表に配列し、インフォーマントにその順番により読んでもらう。ところが、この調査法は「一定の読み調子が出やすい」といった傾向がある。従って、それを防ぐために、調査を始める前に、インフォーマントに発話単位ごとに少し休みを置き、読むように注意した。

実際の調査は、1対1の面接調査という方式を取り、さらに後で聞きなおしたり、分析したりするために、すべて録音テープに収録した。調査・分析には録音機材 TCS

---

<sup>かみ</sup>上地域と<sup>しも</sup>下地域に分かれ、斜線の左の地域を上地域、右の地域を下地域と呼ばれている。

—60 (SONY 杜製) を使用した。

### 3. 3. 調査項目

調査項目は、金田一 (1943)、清水 (1964)、秋永 (1996) などを参照しつつ、本調査の目的に添った観点から全部で 483 語の調査語を選定した。それぞれの調査語を単語、短文、文節という単位に分け調査票を作成した。調査項目については表 1 および本稿末尾の資料を参照。

表 1 山梨県道志村調査項目

一拍 名詞	二拍 名詞	三拍名詞		四拍名詞		五拍以上 の名詞 (複合名詞)	複合 動詞	合計
		和語	漢語	和語	漢語			
32	66 (17)	125 (35)	95 (41)	55	76 (15)	21	13	483

注：括弧にある数字は先行研究による甲府の東京アクセントと違う語数を指す。

### 4. 分析と考察

まず、一～四拍名詞 (449 語) から見ていく。表 2 は、拍数・語種ごとに各インフォーマントの調査結果を記したものである。「/」の左には東京アクセントと同じ型で発話された語数やパーセンテージ、「/」の右にはそれ以外の型で発話された語数やパーセンテージを記した。全体的に見ると、調査語の 80% 強が東京アクセントと一致している。先行研究の通り、道志村のアクセントは、基本的には東京方言のアクセントと異ならないと言える。

しかし、東京アクセントと異なる型の語が、全体で約 20% も占めていることも分かった。以下では、拍数・語種ごとに調査結果の内訳を見ていく。

表2 東京アクセントと異なる一～四拍名詞

	一拍名詞	二拍名詞	三拍名詞		四拍名詞		計	%
			和語	漢語	和語	漢語		
A1	32/ 0	65/ 1	112/13	40/55	49/ 6	61/15	359/90	80.0/20.0
A2	31/ 1	64/ 2	115/10	32/63	53/ 2	56/20	351/98	78.2/21.8
A3	30/ 2	59/ 7	112/13	40/55	53/ 2	61/15	355/94	79.1/20.9
A4	31/ 1	64/ 2	117/ 8	47/48	52/ 3	66/10	377/72	84.0/16.0
B5	32/ 0	60/ 6	113/12	39/56	52/ 3	65/11	361/88	80.4/19.6
B6	32/ 0	60/ 6	115/10	47/48	52/ 3	68/ 8	374/75	83.3/16.7
B7	30/ 2	61/ 5	116/ 9	41/54	50/ 5	67/ 9	365/84	81.3/18.7
B8	28/ 4	60/ 6	115/10	35/60	52/ 3	62/14	352/97	78.4/21.6
B9	28/ 4	59/ 7	113/12	39/56	53/ 2	62/14	354/95	78.8/21.2
B10	31/ 1	60/ 6	112/13	36/59	50/ 5	64/12	353/96	78.6/21.4
計	30.5/1.5	61/ 5	114/11	40/55	52/ 3	63/13	360/89	80.2/19.8
%	95.3/ 4.7	92.4/ 7.6	91.2/ 8.8	42.1/57.9	94.5/ 5.5	82.7/17.1		

#### 4. 1. 一拍名詞

今回の調査では、調査した 32 語のうち 29 語が東京アクセントと一致し、それぞれ平板型の語と、頭高型の語の両型に別れて発音された。そのうち、東京アクセントでは頭高型に属する第 3 類の語彙、例えば「絵・木・酢」などは、道志村でもすべて同じアクセントが現れた。

ところが、「柄・瀬・藻」の 3 語は約半分近くは頭高型となっていることが表 3 から分かる。表 3 は類別語彙では第 1・2 類に属し、東京アクセントではもともと平板型であるもので、今回の調査では頭高型が少なくとも一人に現れた語をまとめた表である。「0」「1」はそれぞれ平板型と頭高型を表わし、( ) にある数字は人数である。表の最後の行は、「/」の左には東京アクセントと同じ型(平板型)で発話された語数、「/」の右には道志村では頭高型で発話された語数を記した。その内、「藻」という単語は渡辺(1957)によると、山梨県では、中巨摩・北巨摩郡下を除いて、多くが頭高型であることから見ると、道志村での「藻」のアクセントが山梨県アクセントと東京アクセントの間でゆれていると考えられる。また「瀬」は参考文献に挙げたアクセント辞書には平板型のアクセントと記述されているが、『東京語アクセント資料』による

と、頭高型と発音される地域も存在するので、道志村では頭高型と発音されてもおかしくないだろう。ただ、それは東京アクセントに変化しつつあることは言えると思われる。しかし、「柄」については、東京アクセントでも、山梨県近辺地方（神奈川県・静岡県）でもすべて平板型となっているので、道志村でのアクセントは道志村の独自変化であるかも知れない。「帆」は、東京アクセントにおいては平板型と新しい型として頭高型も並存していることが知られているが、今回の道志村の調査結果では、全員、頭高型であった。

表 3 東京アクセントと異なる一拍名詞

	A1	A2	A3	A4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	計(人数)
鵜	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0(0)・1(10)
柄	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0(7)・1(3)
緒	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0(0)・1(10)
子	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0(9)・1(1)
瀬	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0(5)・1(5)
血	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0(9)・1(1)
日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0(9)・1(1)
帆	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0(0)・1(10)
藻	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0(6)・1(4)
計(東0/道1)	6/3	5/4	4/5	5/4	6/3	6/3	4/5	2/7	2/7	5/4	4.5/4.5

なお、清水・稲垣（1983）によると、甲府市では、一拍名詞第 1～3 類の語（今回の調査語である「柄・藻・瀬」も含まれている）はすべて東京と同じであるという。しかし、今回の調査を見ると、道志村と甲府では、一拍名詞のアクセントについて違いが存在するということが言えるだろう。

#### 4. 2. 二拍名詞

二拍名詞を見ると、東京と同様に平板型・中高型・頭高型の 3 種の型があり、さらに、92.4%の語彙が東京アクセントと同じであることが分かる。取りあげた 66 語の中で道志村と東京で異なるものは次の 12 語になる。

##### 東京平板型

稗（道志村 中高型・1人）

### 東京中高型

- 垣 (道志村 平板型・6人／頭高型 1人)
- 鞍 (道志村 平板型・2人)
- 下 (道志村 平板型・8人)
- 腕 (道志村 平板型・1人)
- 髪 (道志村 平板型・1人)
- 瓶 (道志村 頭高型・4人)
- 茎 (道志村 頭高型・7人／平板型 1人)
- 萩 (道志村 頭高型・2人)

### 東京頭高型

- 鯡 (道志村 平板型・2人)
- 上 (道志村 中高型・3人／平板型 1人)
- 篋 (道志村 平板型・5人／中高型 2人)

上記のデータから見ると、「垣・下・茎」の3語は、道志村のアクセントと東京アクセントと違い、かつ安定の形を持っているが、それ以外の語は東京アクセントと発音されたのが多い。

#### 4. 3. 三・四拍名詞和語

清水(1964)によれば、和語よりも漢語のほうが山梨県と東京でアクセントの相違が著しいと言われる。道志村にも同じ現象があるかどうかを確かめるために、本調査では三、四拍名詞については、それぞれ和語、漢語別に取り上げた。従って、以下では和語・漢語ごとに考察する。

まず三拍名詞和語を見てみる。

今回の調査では、東京アクセントに見られるような、(イ) 平板型、(ロ) 中高型、(ハ) 尾高型、(ニ) 頭高型の四種類の型の存在が認められた。そしてこれらの型に属する語彙にも大体東京と一致する傾向が認められたが、二拍名詞に比べると一致しない語も少々多く見出された。その最も著しいものは、東京アクセントでは頭高型の「命」類(第五類)である。いわゆる東京式の諸方言では中高型が多いことが知られているが、今回の調査でも中高型が多く現れた。このうちすべてのインフォーマントが中高型であったものは「柱・火箸」の2語で、他の語は以下のようであった。

朝日	2 (9), 1 (1)	油	2 (8), 3 (2)	鮑	2 (6), 1 (4)
命	2 (9), 1 (1)	涙	2 (9), 1 (1)	枕	2 (9), 1 (1)
紅葉	2 (8), 1 (2)	ワサビ	2 (8), 1 (2)		

(注：ここの「2」は中高型、「1」は頭高型、括弧の中の数字は道志村でその型で発話した人数のことを指す。)

ただしそれらの語については、金田一(1943)では、「代表的な乙種アクセントの地方では一般に中高型がむしろ本来の型で東京のような頭高型はむしろ新しい変化によるものと考えられる語彙である」と報告されている。

上の語のうち、「朝日・命・涙」はインフォーマントA4だけが頭高型になっている。A4は「鮎・紅葉・……」においても頭高型であった。A4に居住歴を尋ねたところ、東京に10年ほど居住したことがあるということである。おそらくこの結果は東京語の影響を受けたものであろう。

次に「頭」類(第四類)の語(35語)は東京アクセントでは尾高型であるが、道志村では次の14語が平板型であるのが目立つ。

「<sup>あした</sup>明日・<sup>いぢ</sup>鮎・<sup>いつか</sup>五日・<sup>うしほ</sup>潮・<sup>うづら</sup>鶉・<sup>ずり</sup>硯・<sup>なひ</sup>類・<sup>なづき</sup>渚・<sup>なのか</sup>七日・<sup>なます</sup>鯰」——道志村では70%以上が平板型に発音されている。

「<sup>いさま</sup>軍・<sup>いさま</sup>暇・<sup>うじ</sup>墳・<sup>やから</sup>聾」——道志村には中高型と平板型とが半々存在している。次に四拍名詞和語について見てみる。

表4 東京アクセントと違う四拍名詞和語

	A1	A2	A3	A4	B5	B6	B7	B8	B9	B10	計(人数)
合鍵(東1,2,0)	4	0	0	4	0	4	0	0	0	3	0(6). 4(3). 3(1)
足音(東4,3,0)	0	0	0	0	4	4	2	0	0	0	0(7). 4(2). 2(1)
猪(東3)	4	4	4	3	4	3	4	4	4	0	3(2). 4(7). 0(1)
渦巻(東2)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2(9). 0(1)
雷(東4,3)	4	4	4	3	4	4	2	4	3	4	4(7). 3(2). 2(1)
小麦粉(東0)	3	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0(8). 4(2). 3(1)
座布団(東2)	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2(9). 3(1)
梟(東3,2)	2	2	2	2	1	1	3	1	2	2	2(6). 3(1). 1(3)
松茸(東0)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2(10)
餅つき(東4,0)	2	0	0	0	0	4	2	0	4	0	0(6). 4(2). 2(2)

注：ここでいう「東1.2.3.4.0」はそれぞれ東京アクセントの頭高型、中高型、中高型、尾高型、平板型を指す。

表4に、四拍名詞和語(55語)のうち、東京アクセントと異なる型が出現した語(10

語)の結果を示した。このうち、「猪・松茸」の2語では比較的多くのインフォーマントは東京アクセントと異なる型が出ており、地域的に独特の型であるように思われる。それ以外の8語は、東京アクセントと異なる型がわずかにしか現れておらず、インフォーマントの個人差と考えられる。ただし、「梟」という語は東京と違うアクセントを持っているのが下地域のインフォーマントだけであることから、上地域と下地域に地域差がある可能性もある。

#### 4. 4. 三・四拍名詞漢語

先にも述べたように、清水(1964)では、山梨県の甲府市は、和語よりも漢語のほうが、東京と一致しないものが多いと指摘されている。今回の道志村での調査も同じような現象があることが分かった。特に、三拍漢語は東京アクセントと異なる型のほうが上回っている。そのうち、最も目立つことは、東京アクセントの中高型(23語)の語の内、道志村で頭高型に発音されている語が15語もあるということである。それは、「色素・資金・死刑・祝意・福祉・複利・父兄」(10人)、「湿度・師弟」(9人)、「苦心・区長」(8人)、「区間」(7人)、「婦徳」(6人)、「布巾」(2人)、「一位」(1人)の15語だった。このような現象は、無声子音間狭母音[i][u]の無声化があるかどうかという点から説明できよう。清水・稲垣(1983)によれば、上記の語で、例えば「資金」([ikin])などは、東京語では第一拍の母音が無声化してアクセントの山を第二拍に移しているが、山梨県では無声化が少ないため、アクセントの山が第一拍にあるということである。従って、道志村も母音イ・ウの無声化が少ないという一因はこのアクセントの違いにあるのではないかと思われる。

そのほかに、相違の著しいものは以下のようなものである。

東京平板型(35語) 一道志村頭高型(24語)

会費・気分・指導・製紙・噴火・消費・描写……

東京頭高型(31語) 一道志村平板型(12語)

空気・集荷・二十・被害・分母・名著・旅団……

東京中高型(23語) 一道志村尾高型(3語)

四国・家具屋・事務所

四拍漢語については、相違の著しいものを挙げてみる。それ以外が少数なので省略する。

東京平板型(22語) 一道志村頭高型(10語)

暗算・解決・解約・工作・村会・伯爵・弁別・要害・町会・本館

東京頭高型(28語) 一道志村平板型(18語)



飲食・陰陽・顔色・農業・溶液・冷麺……

#### 4. 5. 五拍以上の名詞（複合名詞）と複合動詞

五拍以上の名詞（複合名詞）と複合動詞については、インフォーマントA4、B6、B10の調査ができなかったため、その他の7人のデータを分析してみた。

まず、五拍以上の名詞（21語）では、東京アクセントとほぼ同じで、「稲光」という語でのみ異なる型が現れた。東京アクセントでは中高型であるのに対して、道志村では7人とも頭高型と発音された。

次に複合動詞に関しては、13語を調査したが、表5に示すように、東京アクセントで既に結合して平板型を示す前部起伏式動詞が、道志村ではまだ接合型を残す話者もいる。そのうち、強めの意味を持つもの、例えば「噛り付く・こびりつく・叩きつける」の3語はほぼ全員が前部要素のアクセントを生かす接合型アクセントとなっている。ところが、強めの意を持たぬ前部起伏式動詞「動き出す・思い出す・降り出す」などは、前部要素のアクセントが生かされている現象が現れてきて、多くは複合度の強い結合型に変化しつつあると言える。

表5 複合動詞

	A1	A2	A3	B5	B7	B8	B9	計(人数)
動き出す	2	2	0	0	4	0	2	2(3).0(3).4(1)
動き始める	2	2	0	0	0	6	2	2(3).0(2).6(1)
思い出す	4	2	0	0	4	0	2	2(2).0(3).4(2)
書き上げる	4	0	0	0	0	0	0	0(6).4(1)
書き直す	4	0	0	0	0	0	0	0(6).4(1)
噛り付く	2	2	2	2	2	4	2	2(6). 4(1)
こびりつく	2	2	2	3	2	4	2	2(5). 4(1).3(1)
咲き出す	3	3	3	0	3	3	3	0(1).3(6)
叩きつける	2	2	4	2	2	5	2	2(5). 5(1).4(1)
取り替える	0	0	0	0	0	0	0	0(7)
取り出す	3	0	0	0	0	3	0	0(5).3(2)
降り出す	1	0	0	0	0	3	0	1(1).0(5).3(1)
読み上げる	0	0	0	0	0	0	0	0(7)

## 5. まとめ

道志村の方言は全般的には東京アクセントと同じアクセントを持っている。しかし、調査語に対する分析と考察を通じて、東京アクセントと一致しない現象も現れてきた。

- ①一拍名詞の「柄・瀬・藻」などの語を頭高型に発音する傾向がある。
- ②二拍名詞も東京と同様に平板型・中高型・頭高型の3種の型があるが、「垣・下・茎」の3語は道志村のアクセントは東京と違い、かつ安定の形を持っていて、それ以外は東京アクセントと発音されたのが多い。
- ③三拍名詞和語は大体東京と一致する傾向が認められたが、二拍名詞に比べると一致しない語も少々多く見出された。その最も著しいものは、「朝日・命・涙・紅葉」のように、東京アクセントでは頭高型に属する語であるが、その約半数が道志村では中高型に発音される傾向がある。また、「頭」類の語(35語)は東京アクセントでは尾高型であるが、道志村では平板型であるのが目立つ。なお、四拍名詞和語はほぼ東京語アクセントと一致した。
- ④道志村は甲府市と同じように、和語よりも漢語のほうが、東京と一致しないものが多い。そのうち、最も目立つのが、「色素・資金・死刑」のような、東京で中高型である語が道志村では頭高型に発音されている語である。それは、東京語では第一拍の母音が無声化してアクセントの山を第二拍に移しているが、山梨県では無声化が少ないため、アクセントの山が第一拍にあるからである。
- ⑤複合動詞については、東京アクセントで既に結合して平板型を示す前部起伏式動詞が、道志村アクセントではまだ接合型を残す傾向がある。

### 【参考文献】

- 秋永一枝編(1995)『明解日本語アクセント辞典』第二版 三省堂  
秋永一枝編(1996)「山梨県芦安村を中心とした言語調査報告」私家版  
金田一春彦(1943)「静岡・山梨・長野県下のアクセント」音声学会会報  
金田一春彦(1977)『日本語方言の研究』東京堂出版  
斎藤孝滋(1999)『地域言語調査研究法』おうふう  
柴田武・山田明雄・山田忠雄編(1996)『新明解国語辞典』三省堂  
清水茂夫(1964)「山梨県国中地方のアクセント」『日本列島方言叢書⑨ 中部方言考② 山梨県・静岡県』ゆまに書房

清水茂夫・稲垣正幸（1983）「山梨県の方言」『講座方言学 6 中部地方の方言』国  
書刊行会

馬瀬良雄・佐藤亮一（1985）『東京語アクセント資料』

NHK 放送文化研究所編（1993）『日本語発音アクセント辞典 NHK 編』日本放送  
出版協会

<資料> 山梨県

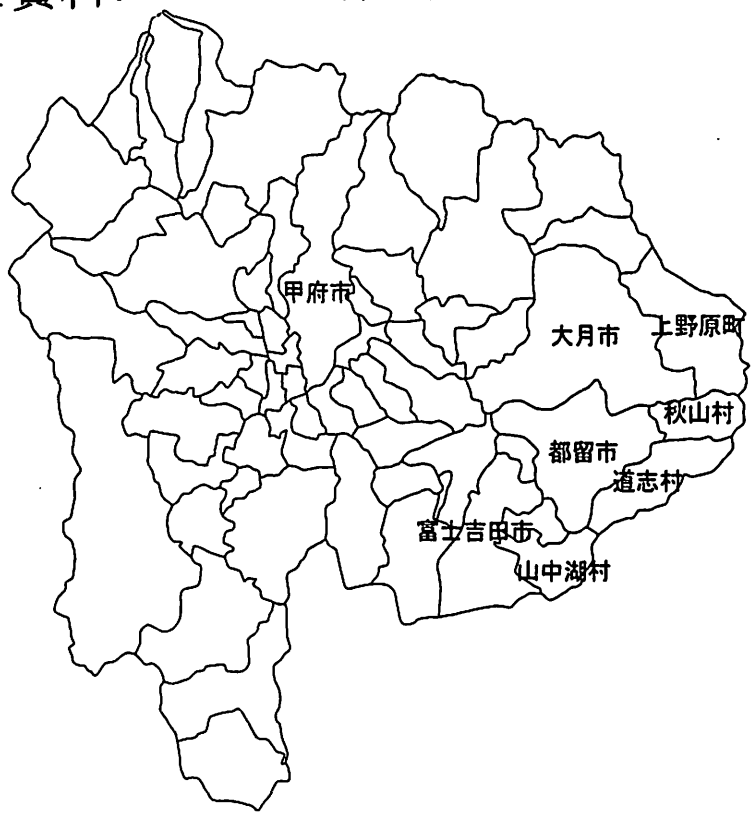


図1 山梨県全図と道志村の位置

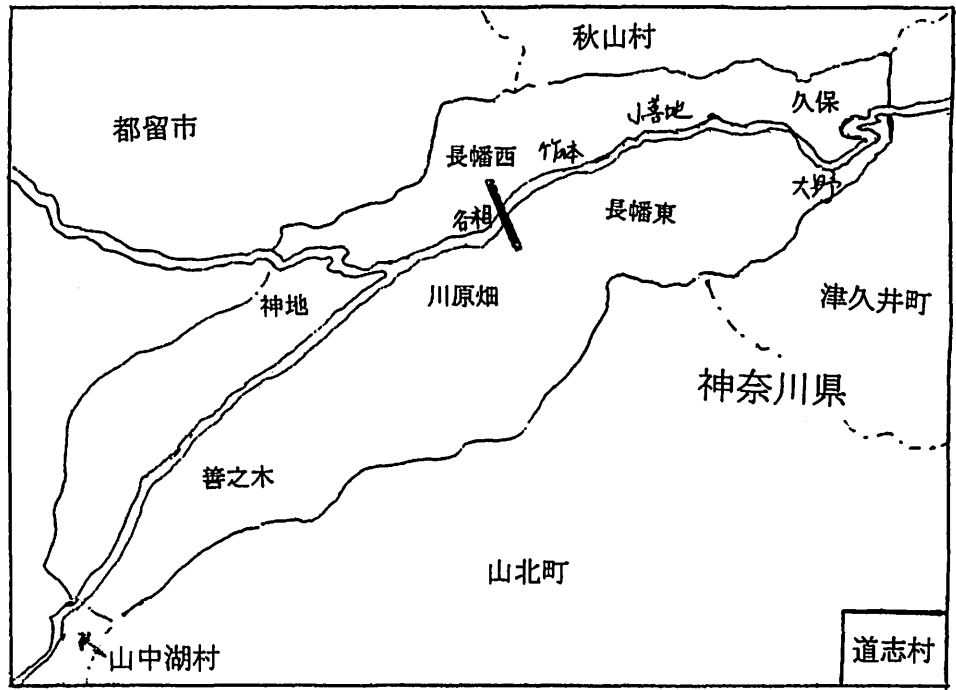


図2 調査地点図 (「上」、「下」の境界を、中央付近の太線で示す)

## 調査語資料

### 一拍名詞

鶺鴒 絵柄 緒尾 蚊木 毛子 酢巢 瀬田 血手 戸名 根葉 齒  
日火 帆穂 実身 目藻 矢湯 夜輪

### 二拍名詞

朝鰻 後飴 息糸 井戸牛 歌腕 海梅 枝桶 貝顔 垣影 傘  
髮神 上瓶 北莖 靴口 首蜘蛛 鞍腰 駒蛙 島下 空旅 鶴  
梨夏 何鍋 波虹 萩橋 箸鼻 稗譜 舟文 篋冬 蛇町 窓水  
味噌 峰耳 虫村 山雪 綿

### 三拍名詞和語

間朝日 明日 小豆頭 油嵐 鮑哀れ 軍鮠 莓五日 五つ 従兄弟 暇  
田舎 命潮 鶺鴒 団扇 鰻項 厩扇 大人踊り 親子 女蚕 飾り 刀 カモメ  
辛子 鱧 胡瓜 狐 昨日 着物 鯨葉 毛抜き 煙心 言葉 子供 曆境 柘榴  
白髮 シラミ 姿 ススキ 硯簾 背中 高さ 類 タスキ 助け 壘頼み 卵 便り  
タライ 俵 団子 田圃 力机 包鼓 椿 ツバメ 劍釣瓶 虜渚 情け 七日  
名前 鯰 鉛 涙 匂い 寝言 鋏 柱 裸足 二十歳 鼻血 林 東 光 左 単衣  
一つ 一人 火箸 ヒバリ 襖 衾 二重 二つ 二人 二日 箒 仏 枕 岬 三つ 緑  
港 ミミズ 昔 娘 紅葉 蝨 病 タベ よだれ ヨモギ ワサビ

### 三拍名詞漢語

悪化 握手 暗記 一位 胃腸 衣服 依頼 印紙 飲酒 右折 雨天 運輸 映画 汚職  
加圧 会費 華僑 家具屋 課税 貨幣 記憶 祈願 基盤 気分 行事 斤目 空気 区間  
区長 経過 景気 下男 下品 孤独 砂糖 思案 寺院 色素 資金 死刑 試験 資源  
四国 時刻 自宅 湿度 実母 実話 師弟 辞典 指導 次男 事務所 集荷 祝意 消費  
製紙 大師 追肥 定期 注射 道具 道理 都知事 難所 二冊 二十 人気 熱意 熱気  
梅雨 排気 番地 被害 悲願 美人 描写 布巾 福祉 福利 父兄 不幸 不自由 普請  
婦徳 噴火 分子 分母 返事 便所 名著 離村 旅団 和平

#### 四拍名詞和語

合鍵 朝顔 足音 甘酒 編物 雨降り 猪 鶯 渦巻 梅干 駅前 弟 金持 カマキリ  
剃刀 雷 唐傘 ガラス戸 切り髪 薬屋 口笛 黒ん坊 蝙蝠 コスモス 小麦粉  
コンニャク 坂道 座布団 椎茸 敷物 スリッパ 賽め馬 縦横 手袋 友達 縄跳 鶏  
長芋 蛤 歯磨き 針金 引越し 鼻 松茸 三日月 右側 蜜蜂 紫 餅つき 物置 山水  
翌朝

#### 四拍名詞漢語

愛犬 挨拶 暗算 案内 異端者 一行 一冊 一隻 医務室 印鑑 印刷 飲食 陰陽  
引力 運転 運命 塩分 欧州 音学 音節 解決 回数 概念 解約 学問 家計簿 観点  
観念 顔色 教材 局員 金属 刑罰 欠点 権限 原料 決算 工作 昨晚 室外 失礼  
新緑 政権 制限 双方 村会 大会 胆石 短命 中断 中毒 町会 通訳 天国 東西  
糖分 東北 図書館 内閣 難解 南西 南北 入選 人情 農業 伯爵 弁別 方言 暴力  
本館 満塁面積 溶液 要害 良薬 冷麺

#### 多拍名詞

赤とんぼ 朝飯前 荒物屋 言い伝え 稲光 薄化粧 臆病者 親心 看護人 銀世界  
化粧品 子供服 サヤエンドウ 所有物 深呼吸 宝船 にわか雨 前後ろ 無条件  
紫色 夜明け前

#### 複合動詞

動き出す 動き始める 思い出す 書き上げる 書き直す かじりつく こびりつく  
咲き出す 叩きつける 取り替える 取り出す 降り出す 読み上げる